

【全体概要】

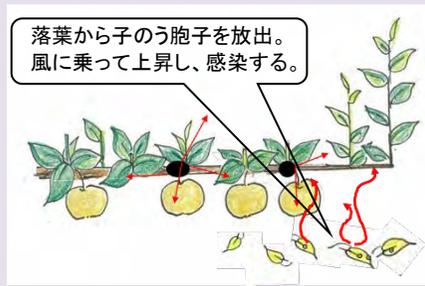
ナシ黒星病とセイヨウナシ褐色斑点病に対する落葉処理を核とする防除技術を現地実証しながら同技術を普及拡大し、日本なしと西洋なしの安定生産を図り、農業者の所得安定化に寄与する。

新品種・新技術等の概要

ナシ黒星病やセイヨウナシ褐色斑点病は秋型病斑を呈した落葉上で越冬し、翌春子のう胞子を放出し感染する。



落葉の秋型病斑



落葉処理の実施

- 残存落葉量を減らすことで、ナシ黒星病の発生は軽減される
→ 農作業機械を用いて中耕・粉碎をすることで残存量が減る
- 各種落葉処理の連年実施 → 子のう胞子飛散量が年々減少
ナシ黒星病の初期発生を抑制
- 処理の実施時期 → 完全落葉後(11月下旬頃)～3月中旬まで

主な取組内容

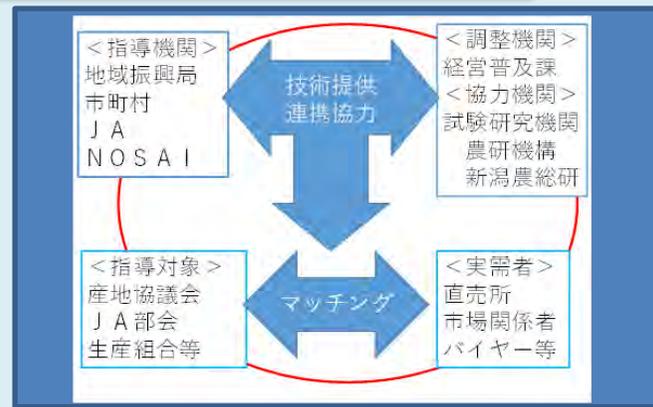
- 落葉処理(粉碎、粉碎+鋤込み、収集処理)を実施し、ナシ黒星病、セイヨウナシ褐色斑点病及びごま色斑点病の防除効果を確認するとともに、多様なほ場環境における落葉処理技術の適応性について実証試験を行った。
- 落葉処理を核とした防除体系の防除効果のエビデンスを得るため、ほ場の微気象、病原菌の胞子飛散量と発病の関係を調査した。
- 落葉処理マニュアルを作成して、普及指導センターやJAへ配布し、落葉処理の推進を図った。



落葉の粉碎処理

落葉処理マニュアル

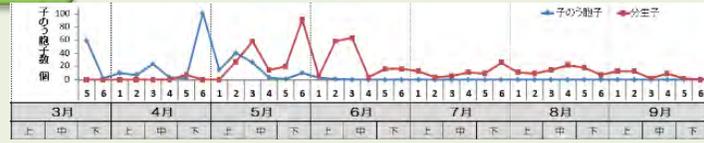
実施体制図



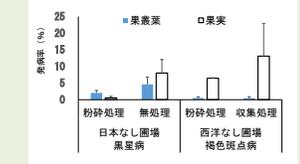
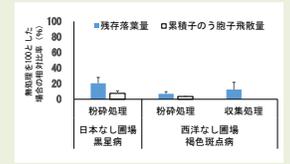
農業革新支援担当が中心となり、普及指導センター、生産者、試験研究機関、JA及びNOSAI等と連携し、事業の取組の調整・進行管理等を行う。産地の指導担当機関は、新潟、三条、上越農業普及指導センターが担う。

実績と今後の展開

① 胞子飛散調査で、感染時期が確認できた。



② 実証では園地地表面の落葉量及び落葉からの子のう胞子飛散量が減少し、ナシ黒星病、セイヨウナシ褐色斑点病の果実と生育初期の葉の発病が少なくなった。落葉処理後の残存落葉量及び子のう胞子飛散量



黒星病、褐色斑点病に対する防除効果

- ③ 生産量は順調に回復(全県取り扱い実績) R2 962t → R4 1,183t
- ④ 新潟県内の主要産地の一つである加茂市と三条市では「天果糖逸(てんかとういっ)」という共通ブランド名で販売を実施している。
- ⑤ 落葉の収集に粉碎処理を加えた落葉除去技術はこれまでの労力的負担を軽減するとともに十分な防除効果を得られることから、日本なし、西洋なし生産のための重要技術として活用されている。